



# サクラエビ

主な漁業と漁期

漁法 2そう船曳き網  
 漁期 春漁: 3月～6月  
 秋漁: 10月～12月

## 生態

### ●分布・大きさ

サクラエビは、成長すると体長45mm程度になる小型のエビで、国内では駿河湾以外に相模湾と東京湾、海外では台湾周辺に分布しています。日本で漁業が行われているのは駿河湾のみです。

昼間は水深200～350mに生息しており、夕方から夜にかけて水深20～60m付近まで浮上します。

駿河湾のサクラエビ漁は、夜間に浮上した群れを漁獲します。

### ●寿命・産卵時期

寿命は、15～18か月です。産卵時期は6～10月で、卵は約1日でふ化し、幼生を経て1か月余りで1cm前後の稚エビに、秋には3cm前後に成長します。産卵盛期とされる6月11日から9月30日までは静岡県漁業調整規則により採捕禁止期間となっています。

### ●資源管理

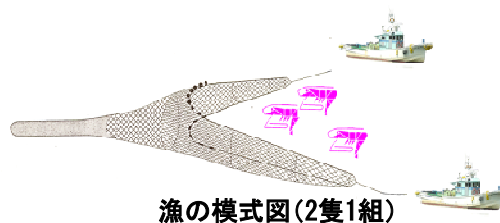
漁獲量の増減が大きく、獲り過ぎを回避するための資源管理が欠かせません。そのため、漁業許可を受けている59か統、118隻が水揚金額を均等に配分するプール制を行うことで過度な漁獲につながる先取り競争を回避しています。

### ●漁業の概要

漁期は3月中旬～6月上旬の春漁、10～12月の秋漁の2回で、漁法は2隻1組で行われる2そう船曳網漁業です。

日没直前から魚群探知機で群れを探し、水深30～70m付近に浮上してきたところで網を投入し、漁獲します。

船上への取り込みにはフィッシュポンプを使用します。海中の網から直接船上の15kg入りのカゴに移した後、直ちに港へ運び水揚げされます。



漁の模式図(2隻1組)



港への水揚げ

1箱15kgの箱に入れて水揚げ

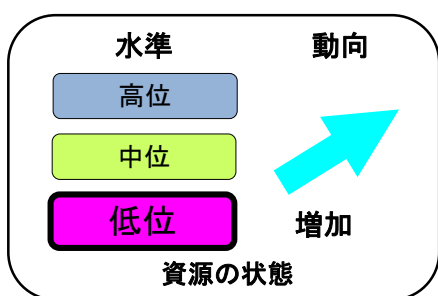


水揚げされたサクラエビ

鮮度維持のため翌朝の入札まで冷蔵庫で保管

## 漁業・資源動向

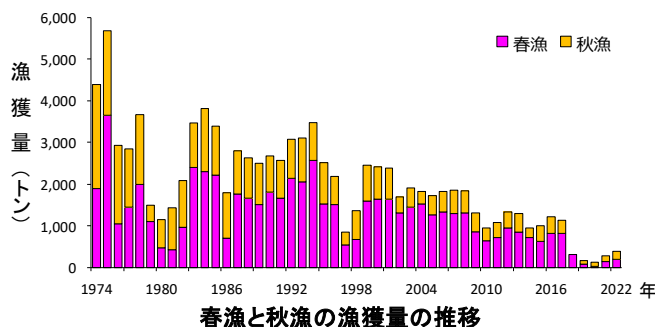
### 【資源】



- 1 年間漁獲量は2009年に1,500トンを下回り、それ以降は1,000トン前後で増減を繰り返していました。2018年以降は400トンを下回り、2019～2020年は100トン台で推移し、2021年は280トン、2022年は380トンでした。これらのことから、2022年の資源水準は低位、動向は増加と判断しました。
- 2 今後、資源を回復させるためには、漁獲量と漁獲圧を注意深く監視すると同時に、産卵親エビを保護して産卵量を増加させることが必要です。

### 【漁業】

- 1 1978年の不漁を機会として、資源管理を強化するため、由比・大井川地区による総プール制を実施しています。
- 2 2018年秋漁は、漁業者が自主的に策定した操業ルールを満たす群れが無かったことから操業を中止しました。
- 3 2019年以降は、春漁では産卵親エビを保護するため抱卵した頭黒エビが増えたら終漁とし、秋漁では翌年産卵する0歳エビを保護するため産卵を終えた1歳エビを漁獲対象とするなど、自主的に策定したルールに基づいて操業が行われています。



春漁と秋漁の漁獲量の推移

担当者の一言: サクラエビの料理といえば「かき揚げ」が代表的ですが、ふっくらとした「釜揚げ」もおすすです。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所資源海洋科 054-627-1817